

文化芸術部会 意見要旨

■検討テーマ（１）板橋らしい文化

委員意見

（評価）

- 自然と歴史と文化、絵本のまちなど、今あるものを活かして、伸ばしていく取り組みは評価できる。
- 区立美術館は「絵本」を通じて、イタリア・ボローニャとのつながりを構築しており、評価できる。
- 区立美術館は館所蔵の江戸美術と、板橋区の宿場町の特色と融合した展覧会を行っており評価できる。
- 板橋区出身、ゆかりのアーティストの活躍を支援することは評価できる。

（課題・意見）

- 文化芸術は個人の楽しみとして認識されることがあるが、文化芸術活動は生きがいであり、生活の一部である。文化芸術の活性化は、まちの活性化に繋がる重要なものと捉えていくことが必要。
- 多様な文化芸術活動がある中で、すべての人が自由に活動できる環境を提供する必要がある。そのために各活動を把握し、共有し、支援が必要。
- 「板橋らしい文化芸術」として、個別の文化芸術を支援する場合は、区内全体の文化芸術のバランスや支援方法を考えることが必要。
- 板橋区には文化芸術における良いコンテンツがあり、それぞれ別々に点在しているため、分野横断的に発信を考えていくことが必要。
- 施策に具体性を持たすために、区内の文化芸術資産を細分化し、活用方法を考えることが必要。
- アーティストによる「鑑賞する文化」、区民が披露する「区民が演じる文化」があるが、区民が主体となる「区民が演じる文化」の充実も必要。
- 教育、福祉、観光などの関係分野と連携して取り組むことが必要。
- 文化芸術活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整えることで全体の参加者を増やすことが必要。
- 文化芸術振興では企画、キュレーションが重要となる。区職員だけでなく、専門分野の識者に意見をもらうことも必要。
- 地域性を大事にしていくべき。西板橋では、田遊びなどの文化が残る。西の板橋と、東の板橋に違いがあってよいのではないか。

- 文化活動は民間主導で板橋地域、志村地域など、地域センター単位で特色のある取り組みを行い、小さいエリアでの活動が、徐々に広がることが望ましいと考える。
- 区立美術館における地域芸術家支援が必要。
- 美術館・郷土資料館のリニューアルの活用方法を検討するとともに、郷土芸能・文化財の認知度向上へ取り組むことが必要。また史跡公園の整備に伴う加賀の魅力発信方法も検討が必要。
- 新しくなる中央図書館には、板橋の魅力を発信する役割を担ってほしい。また区内に点在する魅力を、横断的に繋げる役割としても期待している。
- 伝統工芸は後継者不足による継承問題がある。区では伝統工芸などを教育の一環として学ぶが、そこから継承などへ向けた発展やフィードバックがない。例えば伝統工芸は歴史的、美術的価値があり、美術館展示などで価値あるものとして展開し、板橋区のブランド化に繋げていくことで、若者が伝統工芸への関心を持つきっかけとなるのではないか。また、区は伝統と若者が求めるものを把握し、ハブの役割を担うことが必要。
- 「絵本のまち」は、絵本を軸にしたどのような展開を目指すのか示すことが必要。また絵本をきっかけとして、歴史ある伝統文化と、新しい文化芸術が会う場として、新たな創造のきっかけとすることはどうか。また「絵本のまち」などの子どもが活躍できるテーマを活かし、子どもが主体的に区と関わり、実感が得られる機会とすることが必要。

■検討テーマ（２）文化芸術活動の場

委員意見

（評価）

- 文化芸術活動の場として、アウトリーチ、ロビーコンサートなど文化芸術活動の裾野を広げる取り組みは評価できる。

（課題・意見）

- 文化会館は老朽化が進み、音漏れによる利用制限もあるうえ、利用率の減少という課題も抱えている。施設改善を行い、安心・安全に利用できる環境にすることで、活動の場や鑑賞機会の拡大につながり、利用者の増大も見込める。
- 文化会館は多くの方が利用する場であり、また多くの芸術家が利用している場でもある。今後は、利用者層や利用方法などのデータ収集、区内で活動する芸術家の把握など、文化芸術情報の管理が必要である。同時に、文化会館を情報発信の拠点として活用することや、近隣商店街と連携するなどの事業 PR を進めることも求められる。
- 文化施設のバリアフリー化を推進していく必要がある。点字案内やエレベーターのスペース拡大を行い、音声案内ガイドを活用するなどハード・ソフト両面から施設改善を行うことで、障がいの有無や年齢、性別に関わらず、誰もが文化芸術活動を行える環境を整備していくべきである。
- 新たな文化芸術活動の場の創出が必要である。既存の文化施設に限らず、公的空間や屋外施設などを活用することで、区内芸術家の活動の場を増やしていくのはどうか。さらに、地域の特性を生かし、それぞれに小規模なホールなどを整備することで、コロナウイルス感染症により大規模イベントが開催できないような場合でも、柔軟な文化芸術活動の実施が可能になり、同時に地域に根付く文化の創出にもつながる。
- 区民主体の文化芸術活動機会を創出するためには、文化施設など活動できる場所の認知度向上が求められる。民間の力を活用するなど、周知の方法を検討していくべきである。
- 文化施設の空室について、状況に応じて低価格で提供することで、活動の場の提供、空室解消、地域の身近なイベント開催など各方面への利益となる取り組みができるのではないか。

次期ビジョン（2025 年のあるべき姿）と施策の方向性

■2025 年のあるべき姿

- 「絵本のまち」や「産業文化都市」など板橋区の歴史的・文化的ブランドが区民に浸透し、その価値が交流都市をはじめ世界中に発信されています。
- 板橋区文化団体連合会、板橋ゆかりのアーティストなどの文化芸術や、郷土芸能、伝統文化などの歴史文化財を、区民が知り、自ら楽しむことをとおして、板橋らしい文化芸術を応援しています。
- 文化会館を中心とした安心・安全に利用できるハード面の整備と、文化団体への支援、活動や発表できる機会の創出などソフト面の充実により、年齢や性別、障がいの有無を問わず、だれでも文化活動に参加できる環境が整っています。

■施策の方向性

○板橋らしい文化芸術の魅力発信

「絵本のまち」や光学・印刷などの産業分野など、板橋らしい文化がもつ魅力を発信していきます。また、区内の地域を、それぞれの特色を生かした文化芸術活動の場として発信していきます。さらに、海外姉妹・友好都市との交流をとおして、文化・観光事業と国際交流事業の連携を推進していきます。

○地域がもつ文化芸術資産の活用

赤塚エリアの文化施設の魅力向上や連携推進、加賀エリアの文化・産業・歴史ゾーンの整備など、それぞれの地域がもつ資産を有効活用していきます。また、郷土芸能、伝統文化の継承や認知度向上、地域文化の発掘・創造にも取り組みます。

○区民による文化芸術活動の支援

文化会館のサービス・設備を充実させることや、活動できる場所や機会を充実させることなどをとおして、区民の文化芸術活動を支援していきます。同時に、子どもの豊かな想像力を育む教育により、未来の担い手を育成していきます。

文化芸術部会意見 マトリックス図

